

試験問題番号 65

偶発性低体温症に関する文章で間違いはどれか

- 1 深部体温が35℃以下となるのが定義である。
- 2 低栄養や疲労でも低体温症がおきることがあり二次性偶発性低体温症といわれる。
- 3 高度低体温症では意識は比較的保たれる。
- 4 中等度低体温症で心電図変化がでてきて、30℃以下になると心室細動がおきやすくなる。
- 5 高度偶発性低体温症に対して最近では復温は急速に行うことが推奨されている。

試験問題番号 66

偶発性低体温症に関する文章で間違いはどれか

- 1 アルコール酩酊や睡眠薬服用は低体温症になりやすくなる。
- 2 健康だった人が低温環境に暴露して発症するのは二次性偶発性低体温症といわれる。
- 3 軽度低体温(32～35℃)では過呼吸となる。
- 4 低体温になるに従い特徴的な心電図変化がおきる。
- 5 高度低体温では脳波は平坦化する。

○ 試験問題番号 67

減圧症に関する文章で間違いはどれか

- 1 II型減圧症から減圧療法が適応となる。
- 2 II型減圧症の脊髄型では背部痛や四肢麻痺が見られる。
- 3 呼吸困難、ショック、心停止がみられたら動脈ガス塞栓症を考えるべきである。
- 4 関節痛、筋肉痛、しびれ感だけであれば高濃度酸素投与は必要ない。
- 5 水深10m以内からの急浮上では減圧症は発症しない。

試験問題番号 68

減圧症に関する文章で間違いはどれか

- 1 以前は潜水病や潜函病とも呼ばれていた。
- 2 高圧環境下で体内に溶解していた不活性ガスの気泡化が原因で発症する。
- 3 減圧症で問題になる不活性ガスは主にオゾンである。
- 4 重症例は浮上後から発症までの時間は短い。
- 5 重症減圧障害発症の要因は深く長い潜水である。

試験問題番号 69

高山病に関する文章で間違いはどれか

- 1 重症例は肺水腫をおこす。
- 2 重症例でも意識障害は起こらない。
- 3 急性高山病では悪心、嘔吐のような消化器症状がでる。
- 4 急性高山病ではめまいやたちくらみがあることがある。
- 5 症状がでたら下山が原則である。

試験問題番号 70

脳卒中に関する組み合わせで間違いを選択せよ。

- 1 被殻出血-----対側片麻痺、水平性共同偏視
- 2 視床出血-----対側片麻痺、対側感覚障害 縮瞳
- 3 小脳出血-----運動失調、健側への水平性共同偏視
- 4 橋出血-----四肢麻痺 縮瞳
- 5 くも膜下出血-----運動麻痺なし、激しい頭痛

○ 試験問題番号 71

脳卒中に関する文章で間違いを選択せよ。

- a シンシナチ病院前脳卒中スケールは顔面麻痺、上肢変位、言語異常の3項目で評価する。
- b 脳卒中の症状が突発完成したらアテローム血栓性脳梗塞を疑う。
- c 心原性脳塞栓は高齢者に多い。
- d ラクナ梗塞は直径30mm以内の小梗塞である。
- e 脳梗塞の発症早期のCT所見には early CT sign がある。

1. a, b, c 2. a, b, e 3. a, d, e 4. b, c, d 5. c, d, e

試験問題番号 72

脳卒中に関する文章で間違いを選択せよ。

- a 寝たきり患者の約40%は脳血管障害が原因である。
- b シンシナチ病院前脳卒中スケールには瞳孔不同も含まれる。
- c early CT signで脳出血であることが分かる。
- d 塞栓の原因として心房細動がある。
- e tPAは3時間以内なら心原性脳塞栓にもラクナ梗塞にも、アテローム血栓性梗塞にも使うことができる。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e